

地域を支える高齢者福祉施設・社会福祉法人と都民を結ぶ

アクティブ福祉

第57号

2024年6月発行

社会福祉法人東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会 機関誌



高齢協
ウェブサイト
はこちら♪



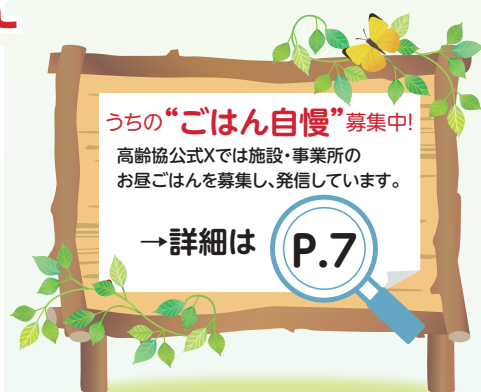
特集

高齢者福祉施設における災害への備え



▲災害対策検討委員会で実施する HUG（避難所運営ゲーム）を用いた研修の様子

*今号では特集をはじめ、「災害・防災」をテーマとした内容を前半に盛り込んでいます。



▲うわさの施設 グランプリ 2023「写真部門」最優秀賞
増戸ホーム

● 高齢協会員施設・事業所の「いま」！	4
● 軽費分科会トピックス	5
● センター分科会トピックス	6
● 広報戦略推進委員会 活動紹介	7
● 教えて！福祉・介護の学校	8
● Join us！イベントのご案内	9
● 東京ケアリーダーズが行く！ うわさの施設	10

● 東京ケアリーダーズ 活動紹介	11
● 高齢協トピックス	12
● 専門委員会リレートーク	14
● 養護分科会トピックス	15
● 福祉・介護の魅力にまつわる なんでもエピソード	16
● 編集後記	16

災害対策検討委員会 委員長

社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム 神明園

なかむら まさと
園長 中村 正人

1) 災害対策検討委員会の取り組み

未曾有、激甚、甚大と形容される自然災害が稀と言えなくなった現在、社会的な災害対策の重要性が増し私たち高齢者福祉施設においても災害時の対応力が問われるようになり、今年度からは業務継続計画（以下、BCP）策定が義務化されました。

そのBCP策定目的とは「施設利用者及び職員の安全確保」「二次災害の防止」「地域の災害対応拠点化」といった要素をふまえ、自施設の業務を継続できる想定を計画することです。都市部、平野部、山間部、島しょ部といった日本の地理縮図的構成を持つ東京都の各施設では、地域性（構成世帯・地形・立地等）に合わせ、地震・風水害・積雪に関係するリスクファクターを考慮し計画策定されているはずで、災害対策に関する実践的な研修等を受けたことがない、被災経験がない、といった方が、汎用的ひな形を参考に体裁だけを整えた計画では、絵に描いた餅となってしまうことは言わずもがなです。そして、BCPは一度策定すれば永続的に機能するというものでもありません。初策定時に想定した地域の諸状況、職員構成そして利用者等諸条件が変われば、都度そこへアジャストさせていく必要があります。

災害対策検討委員会ではせっかく策定した会員施設のBCPが放置されてしまわないよう、活用、更新の啓発を中心に、各施設の災害対応力向上啓発に取り組んでいます。

被災をイメージできる訓練を

BCPの運用に実行性を担保するためにはBCPに準じた訓練は欠かせません。そしてその訓練に最も大事なことはリアリティではないでしょうか。参加する側の「所詮机上の…」といった意識の訓練では、実際に自分たちが被災したときにどうなるかを想像することもできませんから訓練効果も得づらいものです。

また、都内の多くの高齢者福祉施設は福祉避難所の指定を受けていますが、福祉避難所の設置について指定を受けていても行政と調整がついていないケースや、設置想定の訓練をしていないまま指定を受けているといったケースも多いのではないのでしょうか。

それらを含め、被災時に指揮者が不在でも業務停止に陥らないためのBCPですが、職員へのBCP周知は「BCPに目を通しておくように」程度の指示では浸透しません。なぜなら、人には認知バイアスがあるからです。特に災害対策で気を付けなければいけないのは楽観バイアス、正常性バイアスではないのでしょうか。これらの作用で被災を自分事と考えられず意識が高まらないことを考慮して、実効性のある訓練をすることが必要です。

委員会では、これらのハードルを下げて“とっつきやすい訓練”としてカードゲームのような訓練の導入を昨年度より推奨していますので、是非取り入れてみてください。

災害に関する学習の機会を

災害対策を体系的に学ぶ機会は福祉施設では少ないと思います。現在は、各施設の裁量に防災教育の内容は委ねられている状況ですが、先にも書いたように災害対策を専断的に考えることがままならない現状の人員配置では、甚大化、複雑化する災害対策が進歩しません。実践的な訓練を構築するためにも指示者にある程度の防災知識が必要になっていますので、そういった機会の提供も委員会活動の一環と考えています。

昨年度からは、気象庁東京管区気象台との連携による気象情報活用についてのブロック別研修を企画し、青梅・秋川ブロックにおいてテストケースを実施済みです。今年度は都内全体で進めていく予定になっています。



▲ HUG（避難所運営ゲーム）を使った訓練の様子。R5年度からHUGカードの貸出しと訓練を進めるためのファシリテーター派遣を行った結果、12施設からオファーをいただきました。今年度も継続して進めてまいりますので、訓練実施の希望は高齢協事務局までご連絡ください。



▲ 青梅・秋川ブロックで開催した気象庁との連携研修の様子。NHKでも有意義な取り組みとして紹介していただきました。

施設における災害対策の推進の必要性

各施設の災害対策について、委員会では施設ごとの取り組み意識の差について以前より懸念がありました。また、職員が災害に対してどういった意識で取り組んでいるのか、といった現状を知ることによって事業における災害対策の実行性を担保できるのではと考え、昨年度から外部の研究機関と協働し施設職員の防災意識に関する調査を開始しました。現在はまだ十分なデータが集まっているとは言えませんが、訓練の有効な実施方法などの知見について考察し、今後会員事業にフィードバック出来たらと考えています。

2) 災害時の支援と受援

東日本大震災を機に都道府県ごとに災害時の福祉支援体制の検討が進み、災害派遣福祉チームの設置が全国で進んできました。俗にいう DWAT (Disaster Welfare Assistance Team の略) のことです。東京都では遅ればせながら昨年度から設置が進み、東京都から東京都社会福祉協議会を通じ、高齢協からもチーム員の登録研修に協力しています。現在、東京都では福祉関係者（高齢者福祉従事者だけではない）の登録が約 140 名と、これからその規模を拡大してゆく動きの中で過日の能登地震が発生し、急造になりましたが石川県の避難所へ 30 名が派遣された実績ができました。

また、全国の高齢者福祉施設が任意加入している全国老人福祉施設協議会（以下、老施協）でも、すでに老施協 DWAT が編成されています。こちらも東京都内では昨年度からチーム員の登録を始めただけで、体制も整っていませんでしたが、東京都内老施協会員施設から能登地震で東京から初の被災地施設派遣が行われました。こちらは老施協会員施設同士の互助的活動のため、避難所ではなく老施協会員施設への直接支援派遣です。

他にも諸職能団体に災害派遣登録を個別にされている福祉関係者の方々もその職能に合わせ、個別に多くの方が能登へ向かっています。災害支援には義援金や支援金を拠出するほか、各事業の職能を実効的に活用する支援が求められています。

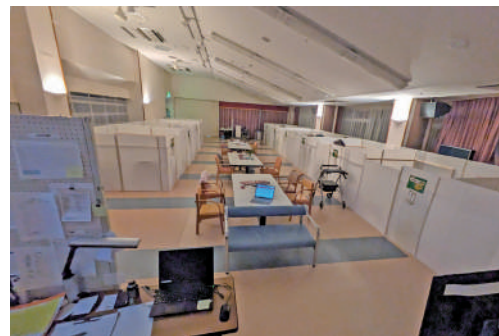
私も東京から初派遣となる老施協 DWAT の、いちメンバーとして 2 月に石川県の特養へ現場の支援へ赴きました。現地を体験することは東京での被災対応をどうするのかを痛切に危惧することになります。語弊があるかもしれませんが、災害派遣で現地へ行っても帰る場所の心配はありません。しかし、自分が籍を置く施設が被災し自力で業務継続が困難な事態に陥った場合、そこに留まり応援に来てくれる方にどうフォローをお願いするのか？という受援力の問題も大変重要な観点だと痛感しました。

BCP では発災直後の初動から通常業務へ回復するまでの期間の対応に自分たちがやるのが記載されていますが、それに併せ外部から支援をいただいたときの受け入れを想定したシミュレートがされているところは少ないと思います。支援をすることと支援を受けることは表裏ですので、支援を受ける想定が BCP で記載されていない場合は是非考えてみてください。

応援派遣に行かなければならないような自然災害は起こらないに越したことはありません。しかし、現実には被災により大変な苦勞をされている方々が大量にいます。その経験は語り継がれるべきものであり、それは現在甚大被災経験のない東京に住む私たちも対岸の火事でとらえてはいけないうことでしょう。まだ能登も震災の影響を大きく残している状態です。機会があれば現地に赴き、その空気を感じることで災害対策への関心を高めていただけたらと思います。



▲東京都初の DWAT の活動は、輪島市内の一般避難所にて。福祉派遣チームのため、避難所生活での困りごとや身体的な健康やメンタルへの配慮など福祉的ニーズへの対応が中心です。



▲老施協 DWAT の派遣先の様子。特養の共有スペースに急造された高齢避難者の生活支援を、他県からの老施協 DWAT や諸団体からの支援派遣者と一緒におこないました。

御礼・報告

令和 6 年能登半島地震における義援金について

3,517,681 円 (80 法人・施設)

上記の寄付をいただき、高齢協からの見舞金 300,000 円とあわせ、全国老人福祉施設協議会へ送金いたしました。

ご支援・ご協力誠にありがとうございました。

また、全国老施協には令和 6 年 3 月 31 日までに総額 104,744,981 円が寄せられ、交付先・交付額は下記のとおりとなっております。

県老施協	第 1 次支給額	第 2 次支給額	支給総額
石川県	30,513,834 円	14,544,532 円	45,058,366 円
富山県	9,486,166 円	4,521,616 円	14,007,782 円
新潟県	—	933,852 円	933,852 円
計	40,000,000 円	20,000,000 円	60,000,000 円

高齢協会員施設・事業所の『いま』！

特別養護老人ホーム博水の郷の災害対策と対応

社会福祉法人大三島育徳会 特別養護老人ホーム博水の郷

施設長 ^{たなか} 田中 ^{みさ} 美佐

1 災害対策本部の設置

世田谷区鎌田にある特別養護老人ホーム「博水の郷」は、多摩川、野川、仙川、丸子川の4つの川に囲まれています。世田谷区からは水害の危険地域に指定されています。法人として、災害に備えるために「災害対策室」という部署を設け、月に1回、全14事業所の代表の職員が集まり、会議を開催しています。

2019年の台風19号接近時には、多摩川の氾濫地域が施設徒歩圏内に迫る中、法人は迅速に災害対策本部を立ち上げ、台風接近前に法人が運営するグループホーム9名の利用者を博水の郷へ避難させました。早めの決断が功を奏し、グループホーム周辺で発生した内水氾濫による被害を回避できました。

2 災害対策

(1) 備蓄品

- ① 飲料水・食品：1週間分
- ② 地域住民向け避難物資：数日分の食料・飲料水
- ③ 災害食：地域住民を招いた試食会を実施し、おいしいものを選定
- ④ 避難スペース：プライバシーに配慮したファミリールームを6セット用意しています。
- ⑤ 災害時の電力確保：72時間持続可能な非常電源装置を設置しています。



▲ファミリールーム

(2) 訓練

- ① 消火器訓練：毎月実施
- ② 地域町会との連携訓練：定期的に実施
- ③ 福祉避難所設営訓練：定期的に実施
- ④ 災害時の伝達訓練：積極的に実施
 - (i) 毎年9月15日：電話による伝言ダイヤル訓練
 - (ii) 全職員にメールアドレスを付与：災害時のメールでの伝達に慣れるため、年4回メールを使ったビンゴ大会を開催



▲優良防火対象物認定証

3 その他

- ① 優良防火対象物認定証取得：東京消防庁より、災害に強い安全・安心な建物であることを認められ、認定証を取得しました。
- ② 能登半島地震への支援：普段からの災害訓練と余裕がある人員体制により、高齢協を通じて、金沢市と能登市の特別養護老人ホームへ看護師1名、介護職員2名を派遣しました。

4 まとめ

「博水の郷」は、災害対策本部による迅速な対応、豊富な備蓄品、訓練の実施など、多角的な取り組みを通して、災害時の安全確保に努めています。今後も、地域住民と協働して防災対策を行っていきます。

特別養護老人ホーム博水の郷
ホームページ ▶



▲能登災害支援第二陣参加メンバー



ケアハウスにおける新たな 防火・防災の試みについて

社会福祉法人豊島区社会福祉事業団 ケアハウス菊かおる園

施設長 ^{あ べ} 安部 ^{えい すけ} 英助

ケアハウスならではの課題

「軽費老人ホーム」の一種である当施設には 30 名の方が入居しており、食事は基本的に食堂で一緒に食べますが、外食等も自由です。また、施設主催の行事やクラブ等もありますが、地域のイベントや教室等にも各自で参加しています。友人との交流や趣味、買い物等を楽しみ、自立した生活を送っている様子は「高齢者住宅」に近いと言えます。そのため、居室内は各入居者のプライベート空間であり、職員が管理することは出来ません。これはプライバシー尊重の観点では当然ですが、防火・防災の観点では「課題」となります。

従来の取り組み

防火・防災管理委員会では毎年メンバーが 2 名 1 組で各居室を回り、入居者の同意・立ち会いの下で点検を行ってきました。この取り組みも一定の効果を上げていましたが、人員や時間の確保、点検精度のバラつきや入居者への説明力不足等が課題となっていました。

新たな取り組み

昨年度、併設の地域包括支援センターより、東京消防庁が行っている「住まいの防火防災診断」の紹介がありました。これは「要配慮者」世帯を対象とした事業ですが、豊島消防署の協力を得て当施設でも実施してもらえることとなり、11 月に 3 日間でほぼ全居室を「診断」しました。当日は消防署員が 3 名 1 組で各居室を回り、30 分程で 29 項目の点検や確認をした後、その場で危険個所の指摘や改善への助言を行いました。入居者の方々も疑問点等を積極的に質問し、専門家から直接説明を受けられたことで安心感や納得感が増した結果、その後自ら荷物を片付けたり、家電の配線を替えたりといった改善行動につながりました。また、職員もチェックポイントとその根拠が正しく理解でき、今後自信を持って説明することができます。

今後も引き続き消防署と連携しながら適宜この制度を活用し、合わせて職員の防火・防災知識を向上させて、入居者の安全・安心な生活を支援していきたいと考えています。



▲菊かおる園 施設外観



▲菊かおる園 施設廊下

ケアハウス菊かおる園
ホームページ ▶



災害が起きた時、地域包括支援センターが、 業務再開する時に考えること

社会福祉法人大三島育徳会
用賀あんしんすこやかセンター

あお やぎ
青柳

こう じ
浩司

● 研修開催までの経緯

令和6年2月27日（火）に飯田橋セントラルプラザにて研修会を開催しました。今回のテーマは「BCP」をキーワードとし、どのような研修にするか9月から検討を重ねてきました。検討当初では、令和6年度にBCP策定が義務化となるため、作成のヒントになるような研修内容を1月に開催することで進めていました。しかし、1月1日能登半島地震が発生し、その地域に多くの被害がありました。そして今も続いています。当時、都内にいた我々もこの地震を感じ、その後のニュースなどで経緯を見ていきました。震災を踏まえ、研修内容と開催時期を急遽見直し、今回の開催に至りました。

テーマは「災害発生時の優先事項とは？」とし、総勢32名の都内で活躍している地域包括支援センター職員が集まりました。「実際に震災が起きた時にどうする？」との問いに、自分の命や家族のこと・地域のこと・所属の包括のこと・法人のことについて、グループディスカッションを行いました。

● 研修に参加して感じたこと

まず、私たちは日々の業務で、地域のことを深掘して支援を行っています。一方で、他の自治体の取り組みについて話を聴けることはあまりありません。そのため、現場感覚の話が聞けるととても貴重な時間となりました。同じ支援・業務であっても考え方・捉え方が違うことを知った時には、まだまだ工夫があることのヒントを、沢山もらうことができました。

また、地域包括支援センターも、それぞれの自治体で運営方法が違っているため、地域での立ち位置が違うことを知ることができたことも新鮮でした。実際に災害が来た時、何ができるのか、今回の研修では、答えや、やることは明確にはなりませんでしたが、しかし地域以外にも手伝ってくれる仲間がいることを、知ることができました。

● 今後に向けて

最後に、人材不足がささやかれている業界です。今いる人材が、業界から離れないように、そしてこれから働こうとしている方たちにやりがいのある仕事であることを伝えられるように我々地域包括支援センター委員会は、皆様の業務のヒントになるような研修を考えていきたいと思ひます。



▲ 2月27日研修会の様子

情報・広報室 広報戦略推進委員会 活動紹介

高齢協の取り組みや福祉・介護の魅力の発信を目的に、3つのワーキングに分かれて、具体的な活動を展開しています。各ワーキングの取り組みと活動への思いを皆様に知っていただけたらと思います！

●機関誌ワーキング



機関誌ワーキング チームリーダー 特別養護老人ホーム谷中 施設長 ^{かつまた ひろし} 勝又 宏

機関誌ワーキングチームでは、高齢協の会員施設をはじめ、都内の関係機関や福祉系の学校に向けて、年4回の機関誌「アクティブ福祉」と年2回の都民向けの「高齢協ジャーナル」を発行し、高齢協の活動紹介や会員施設の先進的な取り組み紹介などの情報提供を行っています。

モニターの皆様からのご意見や、ホームページ・イベントチームと連動した内容、会員の皆様に「役立つ取り組み」や「最新の情報」をメンバーで協議・検討し「わかりやすい情報発信」に努めています。

●ホームページワーキング



ホームページワーキング チームリーダー 社会福祉法人一誠会 ^{ひらいで はじめ} 社会福祉法人連携推進法人一五戸共栄会 法人事務局長 平出 肇

ホームページワーキングチームでは、高齢協が配信している「Facebook」「Instagram」「X（会長・高齢協）」「ホームページ」といったSNSの他、高齢協の多様な活動を紹介した「YouTube 動画」の内容や効果的な配信方法について、企画検討しています。このSNSを通じて、より多くの方に、介護サービスを利用されている皆様の素敵な表情や日々の職員の様子、また高齢者福祉の業界で行っている様々な取り組みを知っていただく機会を作り、介護・福祉業界への安心感と信頼感を得ていただけること、そして若い世代の方々に福祉の現場で働く魅力を感じていただけることを目標に活動しています。

●イベントワーキング



イベントワーキング チームリーダー 社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 ^{いけだ きよひこ} 事務局 施設部 デジタル推進担当課長 池田 清彦

イベントワーキングチームでは東京の介護の魅力を広く PR するために動画、写真、コラム、食事のレシピ等を募集し、優秀作品を選出する「東京の介護ってすばらしいグランプリ」を毎年企画しております。

これからも知ってもらいたい日常の何気ないコマや、食べたくなるような食事、伝えたい思い、を形にし、作品として多くの方に見ていただき、より多くの方に「介護の魅力」を伝える場を作ってまいります。



高齢者福祉施設・事業所で、ご利用者の方々にどのようなお食事を提供しているのか、どのような配慮をしているかなど、広く発信することを目的に、各施設・事業所で提供しているお食事の写真を募集しています。

ご応募いただいたものは、内容に問題がなければ随時Xにアップさせていただきます。Xをフォロー後、専用フォームからご応募ください。ご応募お待ちしております！

▼応募フォームはこちら

<https://form.run/@kourei-tcsw-prVj1q1mQQEdRsESBID9>



読者モニターからのご意見（一部抜粋）－ 56号－

読者モニターの皆様から頂いたご意見を紹介します！

▶学生の反応を知る機会が無いため、知れたことは有り難いです。（教えて！福祉・介護の学校）

▶自施設でも BCP 活動していますが、他施設の取り組みを知ることは少ないので興味深いです。（ブロック活動だより）

▶文字数が多い。ボリューム的には3ページ分くらいの内容だった気がします。（特集）

▶いただいたご意見はよりよい機関誌発行のために活かしてまいります。



福祉・介護の学校

高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉 in 東京（以下、「アクティブ福祉」）」では、施設職員だけでなく学生の口演発表も行われ、多くの学生にご参加いただいています。高齢者福祉の今後の担い手となる学生たちに、学びや経験を深めていただくとともに、都内施設が行う、より良い介護を目指した魅力ある取り組みを伝える機会となっています。

アクティブ福祉に例年ご参加いただいている福祉・介護人材を養成する学校に、学校の紹介とともに、アクティブ福祉への参加の経緯や学生の反応について教えていただきます。今号では、東京 YMCA 医療福祉専門学校 介護福祉科より、寄稿いただきました。

東京 YMCA 医療福祉専門学校 介護福祉科

学校紹介

本校は、世界最大の非営利団体 Y M C A の一員で、東京 Y M C A（1880 年設立）によって 1996 年に国立市に開校しました。介護福祉士として、専門知識や技術だけでなく、常に笑顔と優しさをもって人に接することができる豊かな人間性、人間愛に基づいた本物の医療・福祉を実現できるスペシャリストになることを私たちは心から願っています。

アクティブ福祉参加の経緯

様々な授業の中にアクティブラーニングを基盤としたグループワークを取り入れています。「ともに考え、学び、理解し合う」ことを大切にしています。アクティブ福祉への参加と発表は、学生たちの学ぶ力や考える力を培う機会として、発表学生だけでなく介護福祉科の学生全体で取り組むきっかけになると考え参加させていただきました。



学生が発表をするようになった経緯

善き介護福祉士として、現場で活躍するための専門職養成が専門学校教育であると考えました。入学後の短い期間ではありますが「現場の方に思いを伝えたい」という気持ちがモチベーションにつながり、学生たちの持っている力を引き出すきっかけになりました。

学生の反応

先行研究調査、授業の資料の振り返り、実際に施設の方へのアンケートや聞き取り調査など初めてのことばかりで戸惑いもありましたが、一つ一つ課題を乗り越え、発表に取り組むことが学生の成長につながりました。



最後に

学校では、チームの中で考え実践する力、様々な利用者への対応力を身に付けるために学生たちは日々取り組んでいます。調査で留学生を受け入れている施設から、留学生ではなく『介護福祉士』として採用していることや、「留学生の採用条件」について「違いを作る必要がない」、「介護福祉士に国籍等は関係ない」と力強い言葉を得ることができたなど、学生たちが介護現場から期待される存在になっていることに気づけたことが大きな収穫につながりました。

寄稿：東京 YMCA 医療福祉専門学校 介護福祉科 専任教員
わたなべ よしあき
渡邊 義昭 氏

東京 YMCA 医療福祉専門学校
ホームページ
<https://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/>



Join us!

イベントのご案内

アクティブ福祉 in 東京 '24

第19回
高齢者福祉実践・研究大会

Active Fukushi



「アクティブ福祉 in 東京」は、どなたでも参加できます

アクティブ福祉 in 東京実行委員会 副実行委員長
社会福祉法人 杉樹会 特別養護老人ホーム さんじゅ阿佐谷
施設長 ^{たなか のりかず} 田中 則和

9月25日に「アクティブ福祉 in 東京'24」が開催されます。2006年からスタートした「アクティブ福祉 in 東京」は、今回で19回目となる高齢者福祉実践・研究大会です。前回大会のスローガンである「さいかい」を契機に、コロナ禍で失われた各法人・施設の垣根を越えた交流が戻ってきました。

実行委員会では、この大会を通じて各事業所における素敵な取り組みを広く知っていただける機会も設けることを視野に入れながら取り組み始めています。

皆様の取り組み・実践が、高齢者の方々の生活を支えています。その成果である良い取り組み、素敵な取り組みを拡げるためにも、会員施設の皆様が幅広く大会に関わっていただくことが、介護業界の価値を高め、その推進力につながっていくことと存じます。会員の皆様が自分事としてとらえ、まずはしっかりとつながり、「学び」と「実践」を通じて有意義な活動を築いていく必要があります。

この大会は、高齢者福祉に関する施設・事業所で働いている職員の皆様はもちろん、高齢者福祉を学んでいる学生の皆様や、関心のある皆様など、どなたでもご参加いただけます。

「アクティブ福祉 in 東京」に参加することは、成長の糧となります。大会を通じて大いに刺激を受け、何かヒントを持ち帰っていただける機会とするためにも、上司の方は部下の方々をお誘いいただき、少しでも興味を持っていたいた方は、上司の方へご遠慮なくお声かけいただき、ご参加ください。

節目の第20回大会を見据えて、一緒に手を取り合いながら一步を踏み出すことで、大きく飛躍【JUMP】した私たちがきつといることでしょう。京王プラザホテルで皆さまをお待ちしております。

日時：2024年9月25日（水）10：00～

場所：京王プラザホテル本館4階・5階

大会スローガン：JUMP！

* 詳細は大会ウェブサイトから➡



▲前回大会「アクティブ福祉in東京'23」の様子

東京ケアリーダーズが行く！

うわさの
施設

東京都高齢者福祉施設協議会の数ある会員（約1200施設・事業所）のうち、表彰や推薦など、名誉ある経験をもつ施設を紹介するコーナー。
毎回「うわさ」の施設を東京ケアリーダーズが訪問し、お話を伺います。

今回は、高齢者福祉施設での日常のさまざまな場面にスポットライトを当てながら、介護の魅力を発信する「東京の介護ってすばらしいグランプリ（以下、東すば）2023」写真部門で最優秀賞を獲得した増戸ホームにお話を伺いました。

その30

2023年度開催 「東京の介護ってすばらしいグランプリ2023」『写真部門』最優秀賞
社会福祉法人白百合会 特別養護老人ホーム増戸ホーム

面会再開

2023年の東すば写真部門では、優しさに包まれた時間の素晴らしい瞬間を捉えたドキュメンタリーな作品が評価され、最優秀賞を受賞しました。
同施設の時村 聡 副施設長と深川 千鶴子 総務課長にお話を伺いました。

—— 今回の受賞作品のシチュエーションをお聞かせください

深川：約2年ぶりに施設での面会を再開した際、ご主人と奥様が再会されたときの一枚です。久方ぶりの再会に際し記録写真を残したいと考え撮影しました。ご主人の優しい人柄や長年培われたお二人の絆を自然な形で写真に収められたと思います。

—— 写真から優しさが伝わります。受賞報告の際のお二人の反応はいかがでしたか

深川：以前からよく職員とお話をする関係性でもあったからか、モデルがいいからと冗談交じりにおっしゃっていました。

—— ご家族と職員の日ごろの良好な関係から生まれた作品ですね。面会再開までの経緯についてお聞かせください

時村：コロナ禍による面会自粛からか、次第にご入居者のADLの低下がみられました。施設では対応を間違えなければコロナは怖くはないと捉え、職員からも感染者が出ても対応すればいいという声が上がリ、面会を再開しました。

—— 「コロナが発生しても対応すればいい」という考え方が前向きだと思います

時村：ネガティブな意見も出ましたが、実現すると入居者もご家族も喜び、職員もやってよかったという実感があり



▲取材の様子 左：時村 聡さん、中央：深川 千鶴子さん、右：櫻田 康平さん（東京ケアリーダーズ）

ました。感染症発生時の作業は介護職員や看護職員だけでなく全職員が共同で取り組むこととなり、結果、施設の連帯感が深まったと感じます。

—— 日ごろ、施設内で撮影された写真はどのように活用されていますか

時村：ご家族に施設での様子をお伝えするため、定期的に写真を発送しています。当施設の SNS での発信にも活用しており、Facebook は一般向けに、Instagram は職員・入居者募集およびご家族への発信として使い分けています。

—— ご家族用と SNS 用、写真の撮影の仕方に工夫がありますか

時村：ご家族用は目線を頂くように、SNS 用は自然な日常を収めるようにしています。ご入居者が望む活動をしていただく中で、自然な笑顔を引き出すよう心がけています。

—— 受賞された作品はお二人の人間性や関係性がぎゅっと詰まった写真に私自身も元気をもらったと感じます。ご入居者だけでなく、ご家族との関わりも改めて大切だと実感しました。本日はありがとうございました。

* 「東京の介護ってすばらしいグランプリ 2023」の受賞結果は本誌 P.12-13 および特設サイトから <https://koureikyo.com/>

* この記事のより詳しい内容は高齢協ホームページの「機関誌アクティブ福祉デジタル」でお読みいただけます。 <https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/activefukushi/digital/index.html>

社会福祉法人白百合会 特別養護老人ホーム増戸ホーム

所在地：〒190-0162 東京都あきる野市三内485-1 TEL：042-596-3456

■取材：東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ 櫻田 康平さん（ひのでホーム）

■記録・編集：東京新聞 木下 聡文

増戸ホーム
ホームページ▶





東京ケアリーダーズ

活動紹介



東京ケアリーダーズとは？

東京都内の高齢者福祉施設・事業所で働く若手介護職員によるユニット「東京ケアリーダーズ」。メンバー全員が特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設で働く現役の介護職員です。自分たちの言葉で「介護の仕事の魅力」を伝えることを目的に活動しています。

～東京ケアリーダーズで活動して感じたこと～

社会福祉法人三育ライフ 特別養護老人ホームシャローム東久留米

東京ケアリーダーズ ^い井出 ^{ひなこ}白向子

皆さんこんにちは。東京ケアリーダーズの井出です。

自施設では少人数ですが行事での外出や、フロアでご家族と対面式での面会がスタートしました。風邪が流行り大変だった時期もありましたが、少しずつでも以前よりご利用者にとって楽しみが増えていけばいいと思います。

私が東京ケアリーダーズで活動して1年程経ちました。私自身人前で話す事が苦手で活動することが不安でしたが、活動に参加してたくさんの方と関わりたくさんの経験をさせていただきました。また、同じケアリーダーズのメンバーや研修に参加された方との横の繋がりが増えたと感じました。普段は聞けない他施設のお話を聞く事も出来て活動して得られたことが沢山ありました。アクティブ福祉 in 東京で東京ケアリーダーズのブースを開いて参加された方とお話をしたり、機関誌のコーナー「うわさの施設」でインタビューしたりと東京ケアリーダーズで活動しているからこそ経験できることがありました。研修も含め自施設で活かしていければと思います。

3月には東京ケアリーダーズ主催の研修会がありました。昨年度から zoom ではなく顔を合わせた会議や研修が再開されました。グループワークもあり色々な立場の方の想いも聞くことが出来、学びの多い研修でした。

東京ケアリーダーズでは一緒に活動してくれるメンバーを募集しています。介護の仕事が好きな方、熱意のある方、大歓迎です。私達と一緒に介護の魅力を発信し、介護業界を盛り上げていきましょう！今後も東京ケアリーダーズ一同をよろしくお願いいたします。



▲3月の研修会の様子

高齢協トピックス

東京の介護ってすばらしいグランプリ 結果発表！

多様な場面にスポットをあて、介護の仕事の魅力を広くPRする年に一度のグランプリ。

高齢協 情報・広報室（広報戦略推進委員会）が主催する、介護の魅力を伝えたい方なら施設職員・利用者・ご家族など、どなたでも応募いただけるグランプリイベントです。

令和5年度はウェブサイトから応募いただけるオンラインイベントとして、「東京の介護ってすばらしいグランプリ 2023」を実施しました。皆様からのたくさんのご応募、ありがとうございました。

今号では、令和6年3月に発表した、受賞作品をご紹介します！



【東京の介護ってすばらしいグランプリ 2023 開催概要】

開催期間：①作品募集期間 2023年9月26日～2023年12月4日 ②結果発表 2024年3月

応募資格：東京の介護の魅力を伝えたい方ならどなたでも（施設職員・利用者・家族・一般の方など）

応募方法：全部門、ウェブサイトからの応募

募集部門・テーマ：

部門	募集テーマ
動画部門	● トーク動画「介護の〇〇について話してみた」（10分以内） ● 密着ドキュメンタリー動画「〇〇さんの一日」（5分以内） ● 施設・事業所の紹介CM（30秒以内）
写真部門	● 介護サービスを利用されている方や、おじいちゃん、おばあちゃんの姿 ● 介護職員の姿 ● 介護施設を通じた地域のつながり
コラム部門	● 介護の魅力にまつわるなんでもエピソード
レシピ部門	● 高齢者のココロをカラダがよるこぼレシピ

東京の介護ってすばらしいグランプリ 2023 受賞作品・受賞者

すべての受賞作品は、下記サイトからご覧ください！！

- 高齢協ホームページ内「グランプリ」ページ

<https://www.tcs.w.tvac.or.jp/bukai/kourei/index.html>

- 「グランプリ」特設サイト <http://koureikyo.com/>



▲高齢協HPグランプリページ



▲グランプリ特設サイト

動画部門



「a day in the life — 家族の思い出 —」

（福）サンライズ ひのでホーム 関澤 孝文 氏



👑 優秀賞

- ・介護職員のリアルを見せます「人材育成」～響き合う想い～
〔（福）聖風会 足立新生苑〕
- ・デイサービスの1日に密着！ハロウィン編！
〔医療法人財団百葉の会 港区立台高齢者在宅サービスセンター 高橋香氏〕

👑 入賞

- ・認知症が悪化する話し方。認知症患者さん、全員に共通してやるべきこと
〔エンジョイ株式会社 一期一笑在宅ケアグループ 小野祐一郎氏〕
- ・【あそか会】最後の1日（北砂ホーム）〔（福）あそか会 特別養護老人ホームあそか園在宅サービスセンター（旧北砂ホーム） 大井加菜子氏〕
- ・Honeymoon in Mt Fuji with Wheelchair
〔おしどりシャトル 渡辺瑞穂氏〕

写真部門



「面会再開」

(福) 白百合会 特別養護老人ホーム増戸ホーム



優秀賞

- ・コンチクショ〜!!
〔(福) 青芳会 特別養護老人ホーム今井苑 岸田全史 氏〕
- ・ハロウィンバンパイアでギャー!
〔(福) 長寿村 あやせコミュニティパーク〕

入賞

- ・花束より素敵な笑顔
〔(福) サンライズ 特別養護老人ホームサンライズ大泉 嶋崎美咲 氏〕
- ・笑顔いちばん
〔(福) ほうえい会 特別養護老人ホーム栄光の杜 木下淳 氏〕
- ・「いいでしょう〜?」
〔(福) 杉樹会 特別養護老人ホームさんじゅ阿佐谷 長弓弥子 氏〕

コラム部門



「Nさんとのヒ・ミ・ツ」

(福) 清峰会 ほうらい地域包括支援センター 羽部 清久 氏



優秀賞

- ・「影を慕いて」と一緒に歩んだ半年間
〔(福) サンライズ サンライズひのでだんち 時田里子 氏〕
- ・恋する乙女
〔(福) カメリア会 墨田区特別養護老人ホームなりひらホーム 中山純一 氏〕

入賞

- ・一期一会
〔(福) 聖風会 足立新生苑 チャン ティ トウエット ニュン氏〕
- ・安心感は信頼関係から始まる
〔(福) 一誠会 初音の杜 グエン ティ テム氏〕
- ・介護で自分の価値を見つけました
〔(福) 一誠会 特別養護老人ホーム偕楽園ホーム ツオン ティ トウ アイン氏〕

※サイトでは「コラム部門受賞作品集」をご覧くださいませ!

レシピ部門



「華やか豆乳担々鍋」

(福) 東京弘済園 宇野 剛氏



優秀賞

- ・心身あったまる生姜鶏団子スープ (酒匂優 氏)
- ・もう一度高尾山に登りたい! 【秋味きのこカレー】
〔(福) 一誠会 特別養護老人ホーム偕楽園ホーム 武井さやか 氏〕

入賞

- ・栄養満点! 大根の葉おにぎり (榎本心咲 氏)
- ・野菜たっぷり! 甘酢あんかけハンバーグ
〔(福) 三幸福祉会 特別養護老人ホーム癒しの里南千住 武井圭佑 氏〕
- ・やわらか豆腐すいとん
〔(福) 白十字会 特別養護老人ホーム白十字ホーム 高萩誠 氏〕

※サイトでは「レシピ部門作品集」(受賞作品・一次審査通過作品)、高齢協 YouTube では受賞作品動画をご覧くださいませ!

今年度も「東京の介護ってすばらしいグランプリ 2024」を開催します!

詳細は、9月以降にご案内予定です。たくさんのご応募お待ちしております。ぜひ奮ってご応募下さい。

東京都高齢者福祉施設協議会 情報広報室

専門委員会リレートーク

第24回 制度検討委員会

東京都高齢者福祉施設協議会内の専門委員会*に所属する委員から、委員会の活動内容や、ご自身の法人・施設・事業所でのホットな話題、新しい取り組み、他施設に教えた情報伝えるページです。

制度検討委員会 委員長

社会福祉法人博仁会 和楽ホーム

施設長 みやざわ 宮澤

よしひろ 良浩

●活動の内容

制度検討委員会では、年間6回程度の委員会をとおりて、介護保険制度上の諸問題について実態調査等を実施しています。その中で見えてくる大都市東京としての諸課題について分析し、高齢者施策に関する国、東京都の制度、政策、自治体の取り組みなどに対する要望、提言活動に資する活動をしています。



▲委員会の様子

《今年度の活動》

令和6年度の本委員会の活動は以下の3点を中心に組みます。

- ① 「特別養護老人ホーム入所（居）待機者等に関する実態調査」の実施及び考察
- ② 介護保険制度改正に伴う勉強会の開催
- ③ 介護報酬改定後の運営状況、周辺環境状況の調査

《予定している取り組み》

今年度も「特養養護老人ホーム基礎調査」より「東京都内特別養護老人ホーム入所（居）待機者に関する実態調査」の実施、都内特別養護老人ホームの待機者像の実態把握や待機者減少に於ける背景、都内に於ける施設整備の進展の影響などについて、検討、分析の実施を予定しています。また、本年4月に改定された介護保険制度の理解を深める為、委員会内で独自の勉強会を開催し、制度上の課題などの検証を含め、高齢者施策に関する要望、提言活動につなげていきます。

【令和5年度東京都内特別養護老人ホーム入所（居）待機者に関する実態調査】

昨年度実施した調査結果から明らかになったポイントをご紹介します。

- ① 入所（居）待機者数は各施設が回答された数値をもとに集計をしているため、名寄せがされていない数値であるが、要介護度3以上の待機者数は都内全体で36,362名となり、前年度の待機者数の52,991名と比較し、31.4%程減少している。
- ② 入所（居）申込者は「医療ニーズが高い方」が増加しているも、入所に至らない理由として「医療依存度の高い方」が挙げられており、待機者数と実際の入所（居）可能な人数には乖離が生じている。
- ③ 都内の特養で年間83万床が空床となっており、1施設平均で年間228床が空床となっている。空床の要因として、入所（居）日の調整が難しく退所から新規入所（居）までの日数は中央値で20日間もの日数を要している実態がある。

※制度検討委員会、経営検討委員会、施設管理検討委員会、利用者支援検討委員会、人材対策委員会、災害対策検討委員会の6つの委員会の総称。各委員会には都内各地域の高齢者福祉施設より20名前後が委員として集まり、それぞれのテーマに沿った協議や研修会の開催等を行っています。



『元気にハツラツと健康寿命を延ばそう「Let ‘フレイル予防」』 フレイル予防の取り組みについて

社会福祉法人池上長寿園 養護老人ホーム池上長寿園

主任支援員 いけ はら よし ゆき
池原 美礼

当施設について

養護老人ホーム池上長寿園は、大田区内の婦人団体の方々が2年間にわたり、募金、バザーなど「草の根」の運動を展開し施設建設資金の調達に懸命に奔走しました。その努力によって、昭和37年9月に法人設立、養護老人ホーム池上長寿園が開園いたしました。現在は、開園した場所の池上から仲池上へ移り特別養護老人ホーム・高齢者在宅サービスセンターと併設し事業を運営しております。令和4年からは大規模修繕工事が始まり、今年の夏ごろには工事が終了します。全室（60室）が個室となり、よりプライバシーが保たれた過ごしやすい環境となります。

『Let ‘フレイル予防』の取り組み

6年前から『元気にハツラツと健康寿命を延ばそう「Let ‘フレイル予防」』と称し、フレイル予防に特に力を入れています。フレイル予防の3つの柱（運動・社会参加・栄養口腔）を軸にプログラムを組み毎月10～12種類のクラブ活動をおこなっています。入居者の方には、クラブ活動等への参加意欲を持っていただくために「フレイル予防ポイントカード」というファイルを1冊お渡ししています。（写真参照）

ファイルの内容は、各月ごとのスタンプカード・健康コラム・体操・脳トレと12ヶ月分が1セットになっています。入居者の方はクラブ活動等へ参加すると職員がスタンプを押すスタンプカードを楽しみにしています。また、各年度初めと終わりに基本チェックリスト表を用いてセルフチェックと職員による確認をおこないその結果をもとに一年の変化の振り返りとして「通信簿」を作成してお配りしております。ご自身の健康づくりやケアプラン作成に役立てています。

さらに、令和5年度から体力測定もスタートしました。このように、何歳からでもちょっとした工夫で予防や健康維持ができるようさまざまな取り組みをおこなっています。



▲フレイル予防ポイントカード



▲体力測定に励むご入居者

養護老人ホーム池上長寿園
ホームページ▶



福祉・介護の魅力にまつわるなんでもエピソード

社会福祉法人池上長寿園 特別養護老人ホームたまがわ

いし い ゆう た
石 井 勇 太

歴史を知り “今” を支える

私は現在、ショートステイの担当の仕事をしていただいております。

私の介護職としての原点に、特養の介護職員として働いていたころ、入居されている利用者様の一枚の家族写真を見せていただいた時に、今までの介護感を一変させられる出来事がありました。

若き日の生き生きとした思い出を、写真を通して嬉しそうに語る姿を目にし、強く感じた事がありました。

「この写真を撮影した頃に将来病気になって倒れ子供から介護を受け、いずれ自宅で暮らせなくなってしまう事なんて果たして本人様は想像できたでしょうか？」

できる訳がない…今の現役世代である私達と同じように頑張って仕事して家族を支え、一生懸命笑ったり泣いたりしながら子育てして普通に暮らしてきたんだ…

望んでここに在る訳でもなく知らない誰かにお世話になる事になってしまい本当は悔しいだろうな…」と考えていました。

当時まだ深く考えることもなく、介護の仕事に取り組んでいた私に「俺…ちゃんとしないとダメだ…」と心が大きく動かされたのを今でもよく覚えています。

今、ショートステイ担当として在宅生活の継続を支援させていただいているなか、より一層ご家族からご本人の思い出話を聞かせていただけるようになったことで、今でもあの時に感じた気持ちを思い返し日々仕事に取り組んでいます。



編集後記

高齢協機関連誌であるアクトイブ福祉第57号をお読みいただきありがとうございます。

ご存じのように、この4月からすべての介護事業者（介護施設・事業所）が業務継続計画（BCP）を策定して、自然災害や感染症などの緊急事態が発生した場合であっても介護サービスが安定的かつ継続的に提供され、備えておかなければいけなくなりました。

防災は「人名や建物を守るためのもの」であるのに対して、BCP対策はその事に加えて「事業継続」も含めた対策です。是非、今回の特集である「高齢者福祉施設における災害への備え」を熟読していただき、参考にしてご利用者・職員・地域住民の安全安心に繋げていただければ幸いです。

これからの時期、梅雨が本格化し、暑い夏が本格的に始まる季節になります。

会員の皆様方におかれましては、どうぞご自愛ください。令和6年度も始まって約3か月。今年度も会員の皆様で高齢協を盛り上げて、頑張っていきたいと思います！

社会福祉法人 江寿会

アゼリーアネックス

施設長 福原 聡一郎

高齢協公式 SNS 更新中♪
フォロー、
よろしくお願いします 🐾



Facebook



Instagram



高齢協公式
@TokyoKourei



高齢協会長
@koureikyo



YouTube

東社協
東京都高齢者
福祉施設
協議会

